

# 児島 恵美子

株式会社メディセレ  
代表取締役社長

## 失敗しても良い。立ち上がればそれは良い経験となる！

### 社会で活躍できる薬剤師を 1人でも多く世に輩出したい！

2007年に大阪で起業し、わずか8年の間に全国6カ所、大阪・東京・名古屋・神戸・千葉・仙台に教室を開校。初年度160名でスタートしたが、今では現役生、既卒生を合わせて年間3000人が講習会に足を運ぶ薬剤師国家試験対策予備校に急成長している。

薬学部入学から国家試験合格までの教育コンテンツだけでなく、卒業後も薬剤師のキャリアアップ研修会や心理カウンセラー講座まで幅広くフォローし、薬学教育に情熱を注ぎ全国を飛び回る女性社長が児島恵美子氏である。

2025年、団塊の世代が75歳以上に達することにより、総人口の18%が後期高齢者になると推計される（内閣府「平成26年版高齢社会白書」）。生産年齢人口の割合が減り、国民医療費が増大していく予想は容易につく。さらに10年後の2035年に向けて、医療の中心が病院であるという現状を打破するため、

今後は地域全体で医療を包括するようにと、地域医療が目指されるようになってきた。

それと同時に、治療だけでなく健康維持や予防などのセルフメディケーションへの意識が高まってきている。この地域医療やセルフメディケーションに一役買うのが薬剤師であるといふ児島社長は熱く語る。「薬局は社会の保健室だと思えます。学生のころ、体調が悪くなったら保健室に行き、保健の先生に相談し、介抱してもらった記憶があるのでは？保健の先生が薬剤師であり、保健室が薬局です。薬剤師は相談するのにお金はかかりませんので、健康増進のためにもっと薬剤師を有効活用していただければと思っています」

### 時間は自ら創るもの 笑顔の魔法で乗り越えろ！

児島社長は笑顔が印象的で、強いプラスのエネルギーを感じる人である。

「私は小さい頃から学級委員でしたが、経営者になるとは思っていませんでした。昔から

リーダーになりたいという感覚はなく、常に役割を考えて行動していました。他にリーダーがいれば全面的に応援してきました。でも頼まれると断れないタイプなので推されると、ではやりましょうかというカタチで立つことが多かったのです。責任感は一歩強いので、責務は全うしますし、周囲を巻き込んでいこうという感覚が常にあります。相手の気持ちを考える事とみんなのために動くようにという母の教えを守っていました」

結婚して娘さんもいるという児島社長。どのような毎日を送っているのか。

「時間は創るものだと思います。朝は娘のお弁当を作って、学校に行くと同時に私も家を出ます。クラブをして帰ってくる20時までに、東北であろうと、九州であろうと日帰り帰ってきて、夕食を作ります。家事は機械に全面的にお世話になっています（笑）。大変な事はたいてい重なって襲ってきます。でも、どんな時も笑顔の魔法で運を引き寄せようと思っています。笑顔は伝染しますし、自

**児島 恵美子**  
神戸薬科大学卒業、武庫川女子大学大学院薬学修士号取得、名古屋商科大学大学院経営学修士号取得（MBA取得）、認定薬剤師、認定スポーツファーマシスト。内閣府認証心理カウンセラー。07年梅ディセレを創設。08年メディセレ教育出版を創設。12年メディセレ薬局を開局。15年梅ディセレを創設。NPO法人医療心理学協会理事長。

らの免疫力も上げますから。私はたくさん失敗してきました。阪神大震災の時とはいえ、高い合格率の時代の国家試験に落ちました。でも、その経験により国家試験に落ちるといへば居場所がないのがわかり、支援をしたい、居場所も創らないといけないと思いついて、梅ディセレがあるわけです。失敗は転んでも立ち上がらない事。どんなに転んでも立ち上がれば、それは良い経験です」

### 「考える事」が難しくなった現代 「考える教育」とは？

「便利な世の中となり、わからないことがあつたらすぐにインターネットで調べられます。それにより考える機会が奪われてきていると感じます。調べる事は単なる「作業」です。頭を使う、考える癖をつけるのは、わからなかった時がチャンスなのです。すぐに調べる

のではなく、自分の頭の中にある知識でどうにかできないか？と一瞬頭に思いを巡らせる。小さな点を見つけ出す、無理矢理でも関連性をつなげていく、この訓練が閃きや直感を養う下地となります。そして、それでもダメなら初めて調べる。こういう昔あった流れが、調べる作業が楽になったことにより飛ばされている事を危惧しています」と話す児島社長。

同社では、業界初の参考書の電子書籍化やネット講座という最新の教育コンテンツを展開する一方、2015年には『薬学式ドリル』を出版した。

「知識はインプットで終わるモノではなく、アウトプットできる事が大切。また、記憶の定着には五感を使うと効果的です。だから大學生になっても小学生の時に毎日1ページ手を動かしてコツコツやっていた感覚を忘れないでほしいという思いをカタチにしました」というこのドリル、大人気のため相次ぐ増版が決定した。さらに今年には高校教育から薬学教育をつなぐブリッジ本も出版。「知識はずつとつながっていくものです。特に医療教育はその場で終わらせず、一生の知識にしてほしいモノ。しっかりした基礎の上に新しい知識を積んでいけるお手伝いをしていきたいです。国の根幹は教育と医療だと思います。その下支えを情熱をもってやり続けていきます。相対的プラス思考ではなく、絶対的プラス思考で！」澄んだ瞳とこぼれる笑顔。児島社長と話をするとなぜか元気が出てくるという評判は確かにうなずける。

